「泉大津市公園整備マスタープラン」における公園及び公園施設の再配置計画の手法について

～泉大津市公園整備マスタープランの特徴と市民提案によるマスタープランの策定手法～

2020年 日本造園学会 全国大会
ポスター発表
033

岡本 慎太郎 *　加我 宏之 **　田中 康 *

* 株式会社ヘッズ 大阪本社　** 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻・緑地計画学

はじめに

今後の人口減少や少子・超高齢社会の進展に伴い、公園行政に係る財源確保はより一層困難になると予想される中、選択と集中による適切な公園の再配置や維持管理のあり方を示すことは、全国共通の課題となっている。また、地域主体による公園の管理運営など、市民協働を進めることも今まで以上に重要である。

公園の再配置に関する計画については、各自治体の公園担当部局において必要性が認識されているものの、実際に計画が策定された例は全国でも未だ少ない状況と言える。また、策定され公表されている計画を見ると、機能の再配置について「特化」「分担」「転換」といった方針を地域ごとに示すものは見られるが、**全公園を対象**として、**個別の公園について統廃合を含む方針**を公園の特性や地域特性を踏まえて即地的に示すものは見られない（令和元年７月時点）。

泉大津市では、市内全公園（約９０箇所）を対象に、**選択と集中による公園機能の適切な配置**を図ることで、効率的・効果的な再整備や維持管理を進めることを目的として、**公園の統廃合も含めた公園の再配置**に関する方針を公園ごとに示す「泉大津市公園整備マスタープラン」（令和元年７月）を策定した。

本マスタープランの策定にあたっては、市民ワークショップ等を通じて**市民提案を基本方針や再配置の方針を計画に反映**させている。各種マスタープランの策定にあたっては、専門家委員会などを行うことが一般的であるのに対し、市民提案というプロセスを経て策定されていることも、ユニークな計画であるといえる。

本発表は、本マスタープランの特徴と、市民提案による策定手法について示すものである。

■本マスタープランの特徴と策定プロセス

本マスタープランの特徴	市民提案による マスタープラン策定のプロセス
統廃合を含めた 再配置の方針	公園の現状把握
全公園を対象に、 即地的に個別公園の 方針を設定	公園の現状データ等に 基づく課題の共有
	市民による議論と提案 （市民ＷＳを通じて）

「泉大津市公園整備マスタープラン」の特徴

プランの特徴① 統廃合を含めた再配置の方針

「機能の強化」「機能の分担・特化」「機能の転換」のいずれかの方針を、市内全公園を対象に設定。

■再配置の方針のイメージ

機能の強化

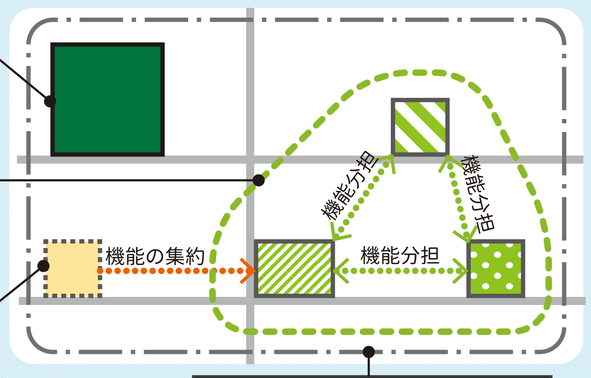
大きな公園（近隣公園、港湾緑地等）は**各公園の特徴を活かして**機能を強化。

機能の分担・特化

小さな公園（街区公園、児童遊園等）は、機能の特化と、**複数の公園をグループで**考えて機能を分担。

機能の転換

公園以外の**異なる機能への転換や廃止**を検討。
廃止の際は、他の公園への機能の集約等、代替機能を確保。

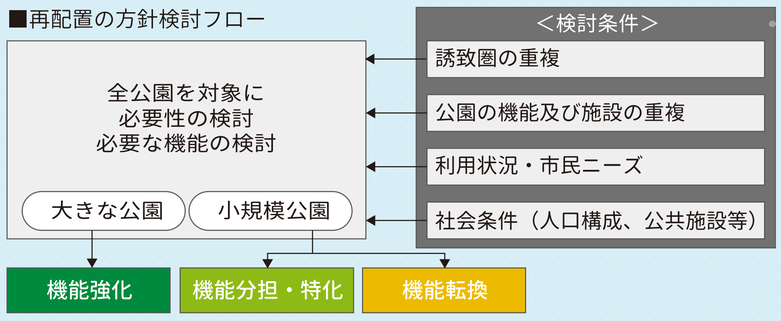


複数公園で機能を補完し、
地域全体で機能を確保

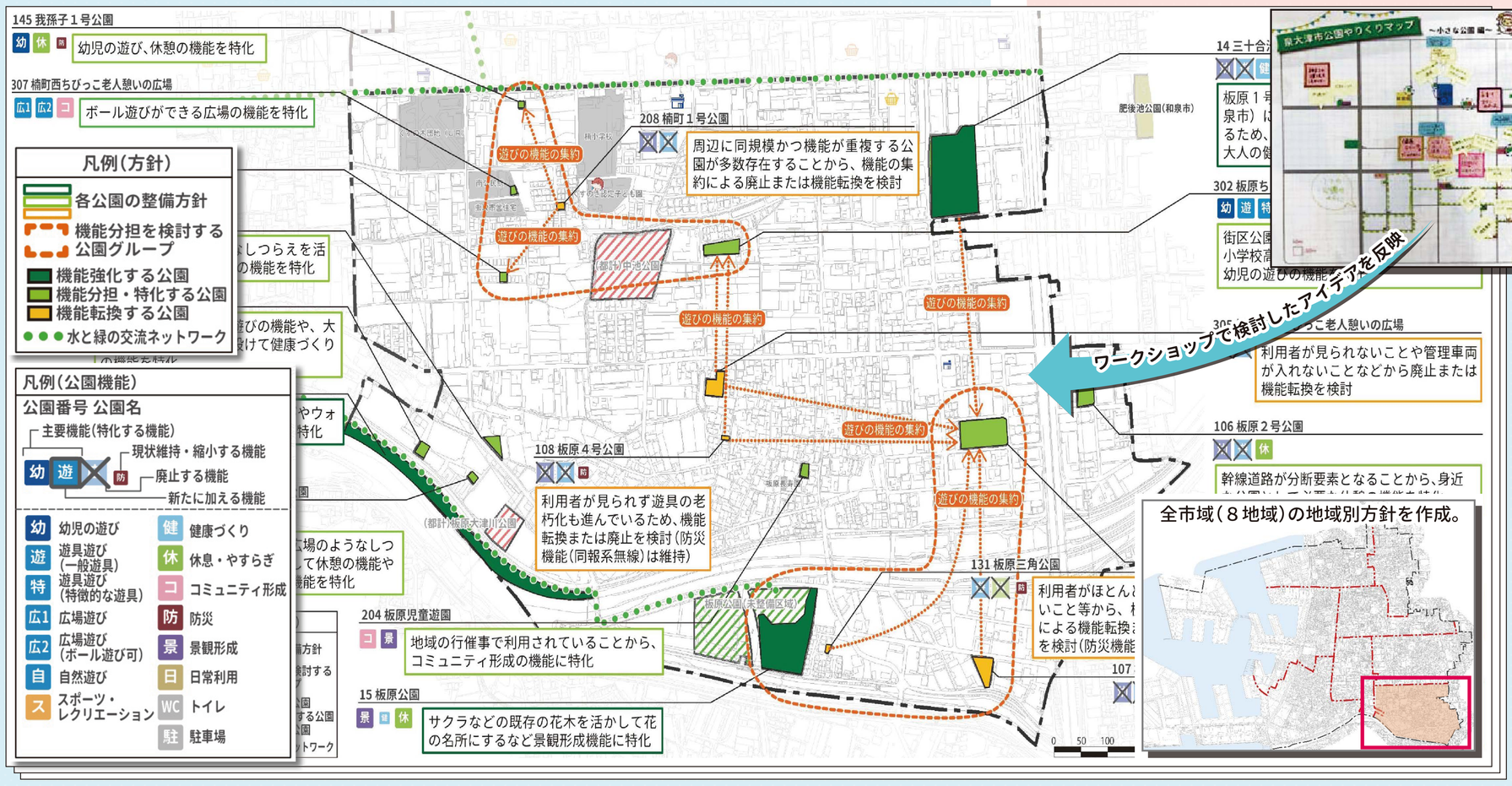
プランの特徴② 全公園を対象に、即地的に個別公園の方針を設定

市内全公園を対象に、誘致圏の重複、機能の重複、利用状況、周辺施設、市民ニーズから、各公園の特性や地域特性をふまえて**即地的に方針を検討**。地域別方針としてまとめた。

■再配置の方針検討フロー



■各公園の方針等を示した地域別方針図（例）

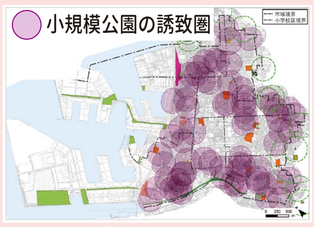


参考：泉大津市ホームページ「公園整備マスタープラン」 https://www.city.izumiotsu.lg.jp/kakuka/tosiseisakubu/matidukuriseisakuka02/tantougyoumu/midori/kouennnokeikakunituite/kouennseibimasuta_puran/1541397187132.html

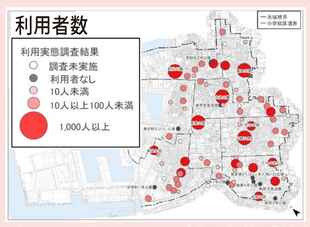
市民提案によるマスタープラン策定のプロセス

プロセス①公園の現状把握

検討条件の整理に向けて、様々な方法で現況調査・分析を実施した。利用実態調査では、全公園の利用者数等を計４日間、１時間毎に調査した。市民ニーズは多様な市民意見を把握するため、郵送やウェブアンケートの他、市内各種イベント時にヒアリング形式による調査も実施した。



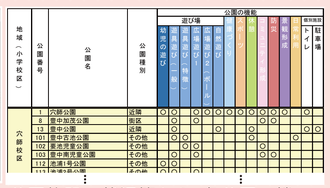
誘致圏の重複状況の分析。



全公園、目視による利用実態悉皆調査。

市民ニーズの把握（対面式アンケートの様子）。

社会条件の一つとして町丁目単位での人口構成の把握。若年層や高齢者が多い地域など、地域特性を把握。



公園施設の状況等から、各公園の機能を把握（遊びは６種類の機能に分類）。

プロセス②公園の現状データ等に基づく課題の共有

全４回実施した公園市民ワークショップでは、プロセス①で実施・分析した**様々な公園の現状データや情報を参加者へ提示したうえで議論**を行った。これにより、**客観的なデータに基づく具体的な課題**を行政と市民、市民と市民が互いに共有しながら検討を進めた。

よく使われている公園と、
ほとんど使われていない公園がある。

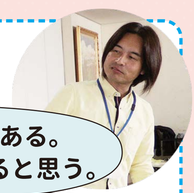
用途や年齢に応じて
複数の公園を使い分けている。

「つくる時代」から「つかう時代」へ。
次代に対応する「やりくりプラン」
として策定することが重要！

プロセス③ 市民による議論と提案

特色ある公園づくり、機能特化や機能分担、機能転換、公園の統廃合など、公園の再配置の方向性や、公園の活用やリニューアルに関する具体的な工夫について議論し、市民提案としてまとめた。

公園及び公園施設の再配置に関する市民アイデア



各公園の特徴を活かした
特色ある公園づくりを！

まちなかのグラウンドは
ボール遊びの場として
もっと開放しては？

使われていない公園もある。
中にはいらない公園もあると思う。

使われていない公園は、
公園の廃止や、全く別の機能に転換して、
有効活用してもよいと思う。

芝生だけ、ボール遊び専用など、
公園ごとに機能を限定して
特化するとよいのでは？

これからは地域が主体的に、市と連携して
公園の管理運営をしていく必要がある。

複数の公園を関連付けて
機能を考えるべき！

市民提案

“やりくりマスタープラン”

基本方針１ 特徴を活かした大きな公園の魅力の向上
基本方針２ 小規模公園の機能の適切な配置
基本方針３ 市民が主役となる共創の公園づくり

機能の強化
機能の分担・特化
機能の転換

市内の実際の公園配置を想定した図面をもとに、小規模公園の統廃合や機能分担、機能特化等に関するアイデアや、公園の活用アイデアなどをまとめた「やりくりマップ」を作成。

「やりくりマップ」（第３回市民ＷＳ成果より）

今後の展開

市では現在、マスタープランに基づく各公園の再整備をストック再編事業を活用しながら順次進める予定としており、昨年度は遊具のリニューアルや地域広場の確保、トイレの撤去等を含む街区公園の整備が実施されている。市民ワークショップやモデルプロジェクトをきっかけとした行政と地域との新たな連携体制により、新たな公園活用へと展開する動きも見られる。

本マスタープランで市民提案として提示された「やりくりプラン」の実現には、ワークショップ最終回において市民からも意見があったように、地域が主体となった公園の管理運営が不可欠であり、行政と市民との協働のしくみづくりへの展開が望まれる。